

大垣地域の企業景況調査報告書

令和6年4月～6月期

大垣商工会議所
産業振興委員会

大垣地域の企業景況調査報告（令和6年4～6月期）

○調査要領

当調査活動は、大垣管内の300事業所を対象に各業種の景気動向をはじめ、事業所が抱える経営課題やニーズを把握するため、四半期毎に「大垣地域の企業景況調査」を実施しています。

1. 調査対象期間

令和6年4月～6月期の実績・見込み、及び令和6年7月～9月期の見通しについて調査

2. 調査時点

令和6年6月

3. 調査対象

製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5業種

○調査対象事業所区分

区別	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
件数	54	30	27	86	103	300
構成比	18.0	10.0	9.0	28.7	34.3	100

4. 調査方法

メール又はFAXを利用

5. 回収状況

回収件数258件 回収率86%

6. DI（デフュージョンインデックス）景気動向指数

景気動向全体を表すように工夫された指数で、いわば景気の早見表

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

$$\text{状況・採算} : (\text{好転}) - (\text{悪化}) \quad \text{売上} : (\text{増加}) - (\text{減少})$$

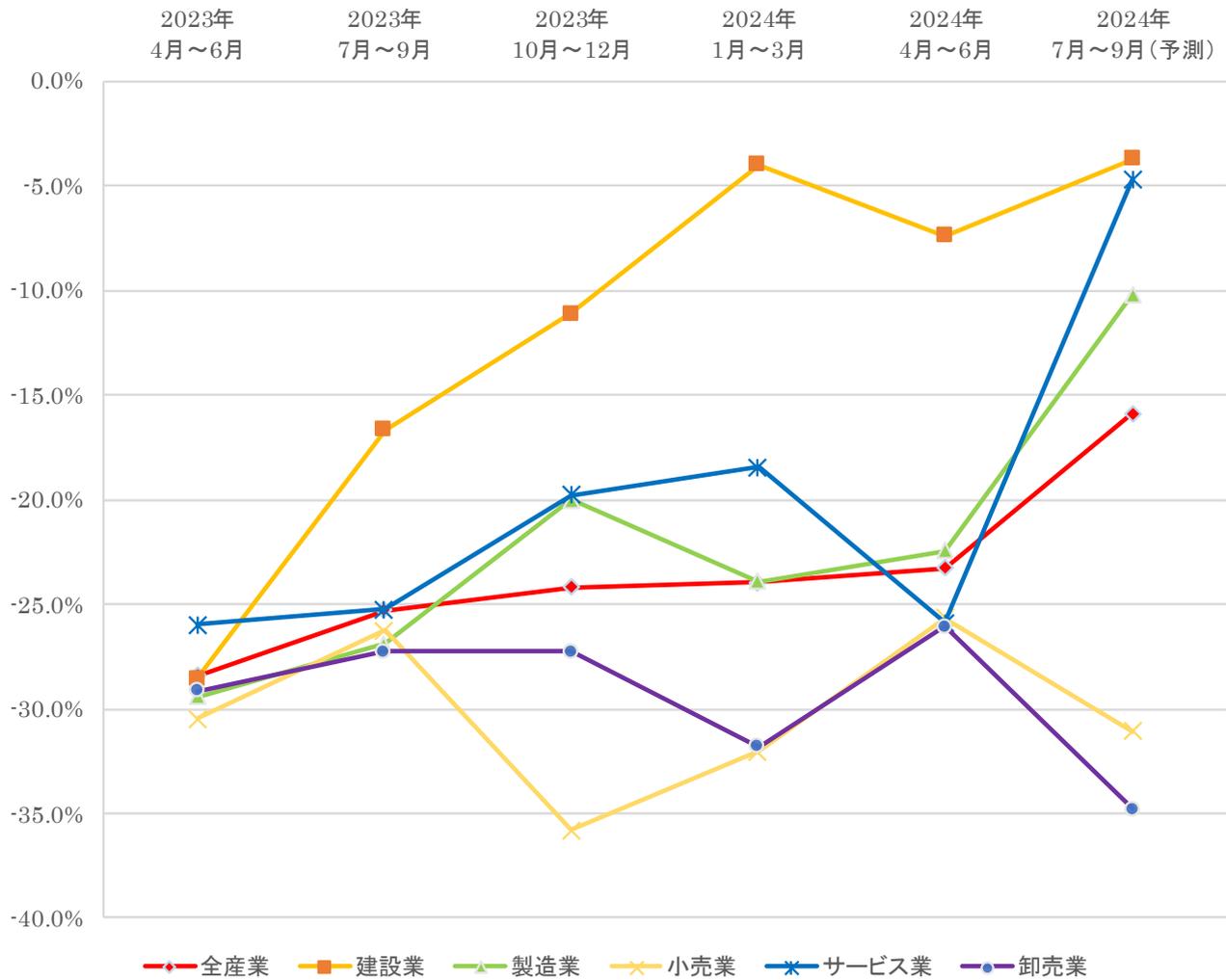
◎全産業の概要

○中小企業の業況は、前期と比較して全産業はほぼ横ばい、小売業と卸売業、製造業はやや回復傾向、建設業、サービス業はやや落ち込んだ。来期は小売業、卸売業以外は大幅な回復を見込んでいる。

○全産業の業況判断DIは、前年同月との比較では5.1ポイント増ではあり、中でも建設業が21.2ポイント増とかなり回復した。

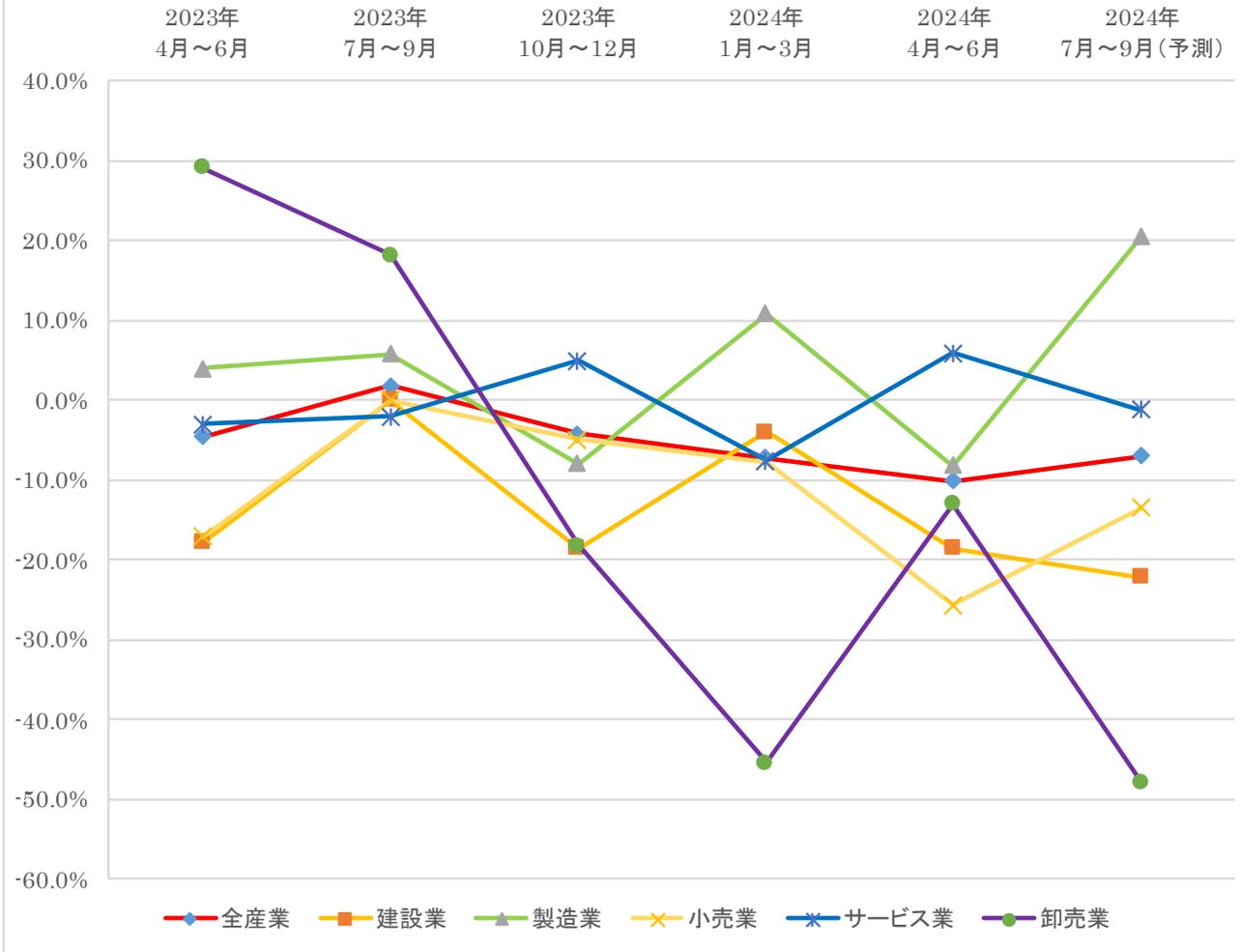
1. 令和6年4～6月期の全産業の業況判断DIは、前期▲24.0→今期▲23.3(前期比0.7ポイント増)となった。
2. 全産業の売上DIは、前期▲7.3→今期▲10.1(前期比2.8ポイント減)となり、産業別では、製造業が前期10.9→今期▲8.2(前期比19.1ポイント減)、建設業が前期▲4.0→今期▲18.5(前期比14.5ポイント減)小売業が前期▲7.8→今期▲25.7(前期比17.9ポイント減)と落ち込んだが、サービス業が前期▲7.6→今期5.9(前期比13.5ポイント増)、卸売業は前期▲45.5→今期▲13.0(前期比32.5ポイント増)は回復傾向となった。
3. 全産業の採算DIは、前期▲11.8→今期▲13.6(前期比1.8ポイント減)となった。
産業別では卸売業が前期▲22.7→今期▲13.0(前期比9.7ポイント増)と改善、建設業が前期▲20.0→今期▲18.5(前期比1.5ポイント増)は横ばい、小売業が前期▲18.4→今期▲23.0(前期比4.6ポイント減)、サービス業が前期▲5.4→今期▲8.2(前期比2.8ポイント減)、製造業が前期0.0→今期▲6.1(前期比6.1ポイント減)と落ち込みぎみであったが、来期は建設業、小売業は横ばい、他産業は落ち込みを予想している。
4. 全産業の設備投資実施企業割合DIは、前期▲37.2→今期▲32.6(前期比4.6ポイント増)とやや増加傾向であった、産業別に見ると、製造業、卸売業は増加、小売業は横ばい、建設業、サービス業は落ち込み傾向にあった。
来期はサービス業が増加、建設業は横ばい、製造業、小売業、卸売業は減少傾向を予想している。
5. 商品仕入単価DIは、全産業においては前期54.2→今期64.0(前期9.8ポイント増)と回復傾向であった。
前年同期69.8→今期64.0(前年同期比5.8ポイント減)となり、全産業ともにやや高騰が収まった傾向がみられ、来期はさらに少し落ち着くと見込んでいる。
6. 全産業の資金繰りDIは、前期▲12.8→今期▲12.0(前期比0.8ポイント増)となった。
長期資金借入難易度DIは、前期▲3.8→今期▲0.8(前期比3.0ポイント増)となった。
短期資金借入難易度DIは、前期▲1.7→今期▲3.1(前期比1.4ポイント減)となり、借入の難易度は横ばい傾向である。
7. 経営上の問題は依然として、「原価材料の上昇」「従業員の確保難」「材料価格の上昇」「仕入単価の上昇」等が全産業の上位に挙げられている。また小売業においては変わらず「消費者ニーズの変化への対応」が1位となった。製造業、建設業では人材不足の問題も依然として、改善が難しい課題となっている。

1. 業況判断D I



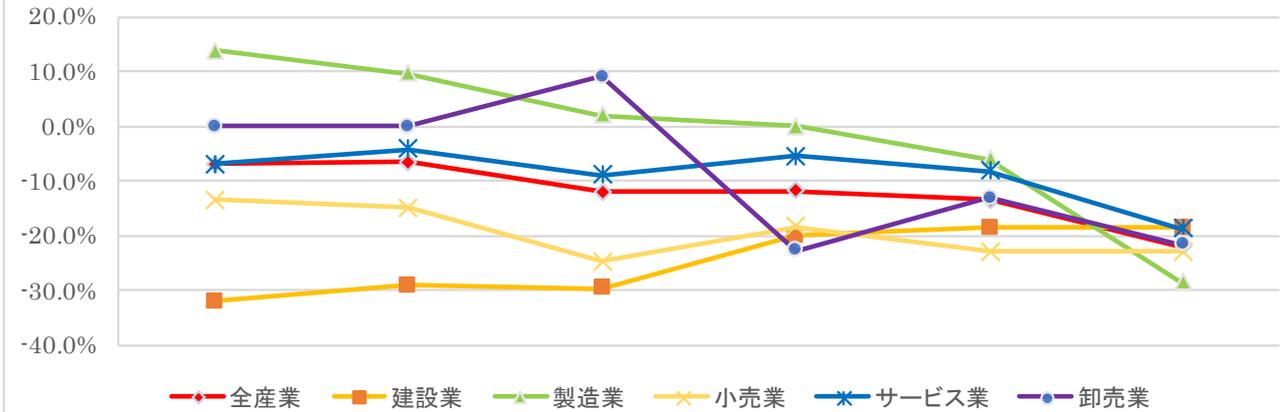
	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-28.4%	-25.3%	-24.2%	-24.0%	-23.3%	-15.9%
建設業	-28.6%	-16.7%	-11.1%	-4.0%	-7.4%	-3.7%
製造業	-29.4%	-26.9%	-20.0%	-23.9%	-22.4%	-10.2%
小売業	-30.5%	-26.3%	-35.8%	-32.0%	-25.7%	-31.1%
サービス業	-26.0%	-25.3%	-19.8%	-18.5%	-25.9%	-4.7%
卸売業	-29.2%	-27.3%	-27.3%	-31.8%	-26.1%	-34.8%

2. 売上DI



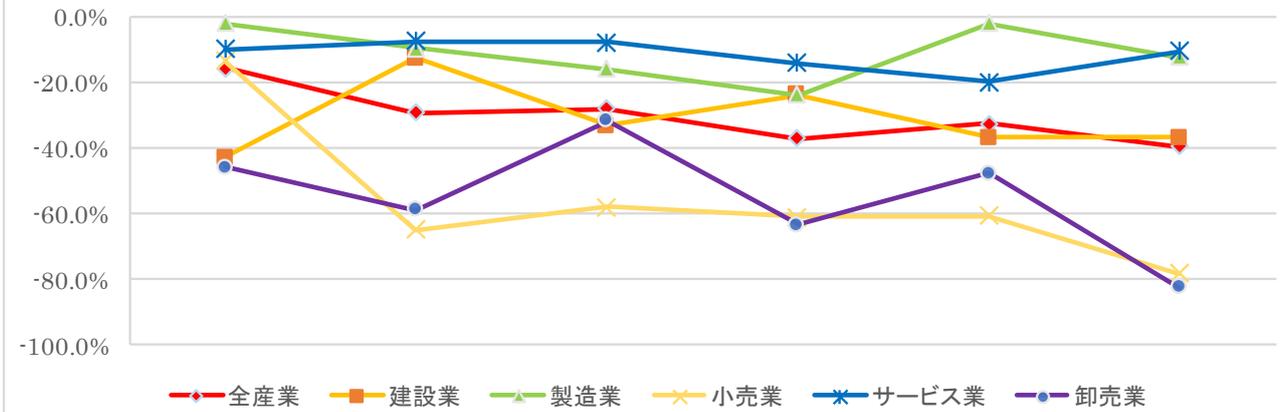
	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-4.6%	1.8%	-4.3%	-7.3%	-10.1%	-7.0%
建設業	-17.9%	0.0%	-18.5%	-4.0%	-18.5%	-22.2%
製造業	3.9%	5.8%	-8.0%	10.9%	-8.2%	20.4%
小売業	-17.1%	0.0%	-4.9%	-7.8%	-25.7%	-13.5%
サービス業	-3.0%	-2.1%	5.0%	-7.6%	5.9%	-1.2%
卸売業	29.2%	18.2%	-18.2%	-45.5%	-13.0%	-47.8%

3. 採算DI



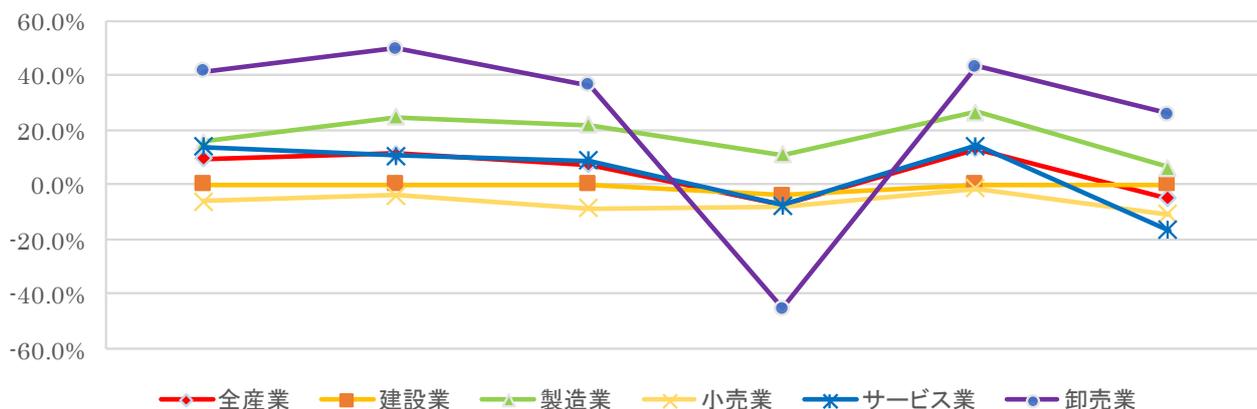
	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-7.0%	-6.6%	-12.1%	-11.8%	-13.6%	-22.1%
建設業	-32.1%	-29.2%	-29.6%	-20.0%	-18.5%	-18.5%
製造業	13.7%	9.6%	2.0%	0.0%	-6.1%	-28.6%
小売業	-13.4%	-15.0%	-24.7%	-18.4%	-23.0%	-23.0%
サービス業	-7.0%	-4.2%	-8.9%	-5.4%	-8.2%	-18.8%
卸売業	0.0%	0.0%	9.1%	-22.7%	-13.0%	-21.7%

4. 設備投資実施企業割合 DI



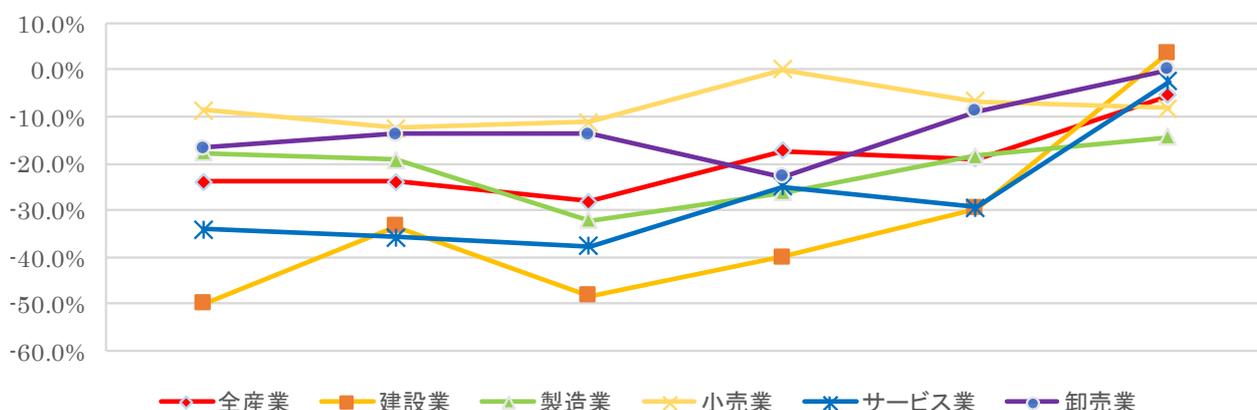
	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-15.8%	-29.3%	-28.1%	-37.2%	-32.6%	-39.5%
建設業	-42.9%	-12.5%	-33.3%	-24.0%	-37.0%	-37.0%
製造業	-2.0%	-9.6%	-16.0%	-23.9%	-2.0%	-12.2%
小売業	-13.4%	-65.0%	-58.0%	-61.2%	-60.8%	-78.4%
サービス業	-10.0%	-7.4%	-7.9%	-14.1%	-20.0%	-10.6%
卸売業	-45.8%	-59.1%	-31.8%	-63.6%	-47.8%	-82.6%

5. 価格動向 DI 「売上単価」



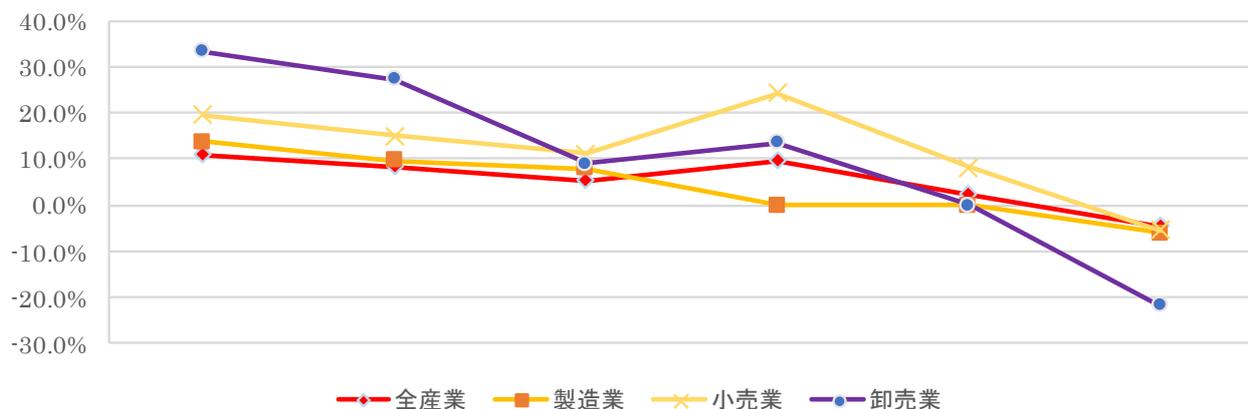
	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	9.5%	11.4%	7.5%	-7.3%	13.2%	-5.0%
建設業	0.0%	0.0%	0.0%	-4.0%	0.0%	0.0%
製造業	15.7%	25.0%	22.0%	10.9%	26.5%	6.1%
小売業	-6.1%	-3.8%	-8.6%	-7.8%	-1.4%	-10.8%
サービス業	14.0%	10.5%	8.9%	-7.6%	14.1%	-16.5%
卸売業	41.7%	50.0%	36.4%	-45.5%	43.5%	26.1%

6. 雇用人員 DI



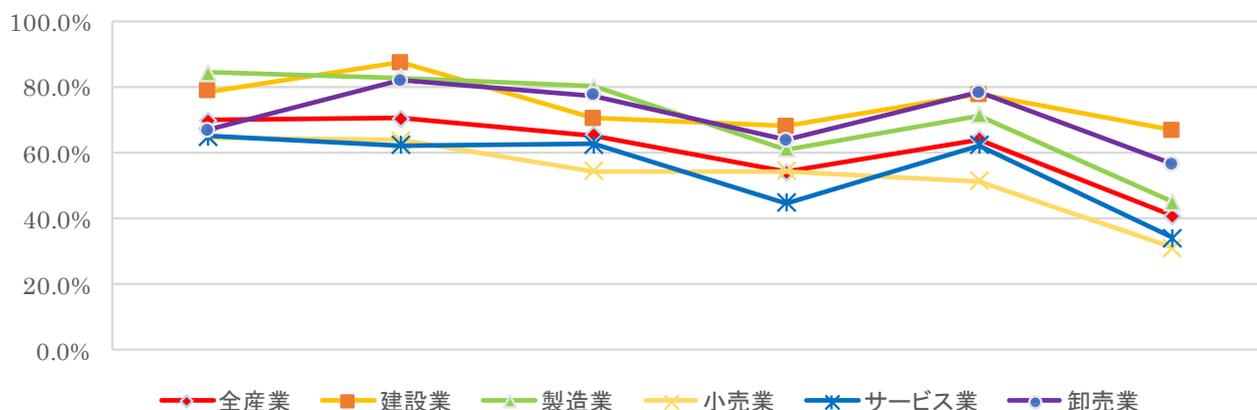
	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-23.9%	-23.8%	-28.1%	-17.4%	-19.0%	-5.4%
建設業	-50.0%	-33.3%	-48.1%	-40.0%	-29.6%	3.7%
製造業	-17.6%	-19.2%	-32.0%	-26.1%	-18.4%	-14.3%
小売業	-8.5%	-12.5%	-11.1%	0.0%	-6.8%	-8.1%
サービス業	-34.0%	-35.8%	-37.6%	-25.0%	-29.4%	-2.4%
卸売業	-16.7%	-13.6%	-13.6%	-22.7%	-8.7%	0.0%

7. 在庫水準判断 DI



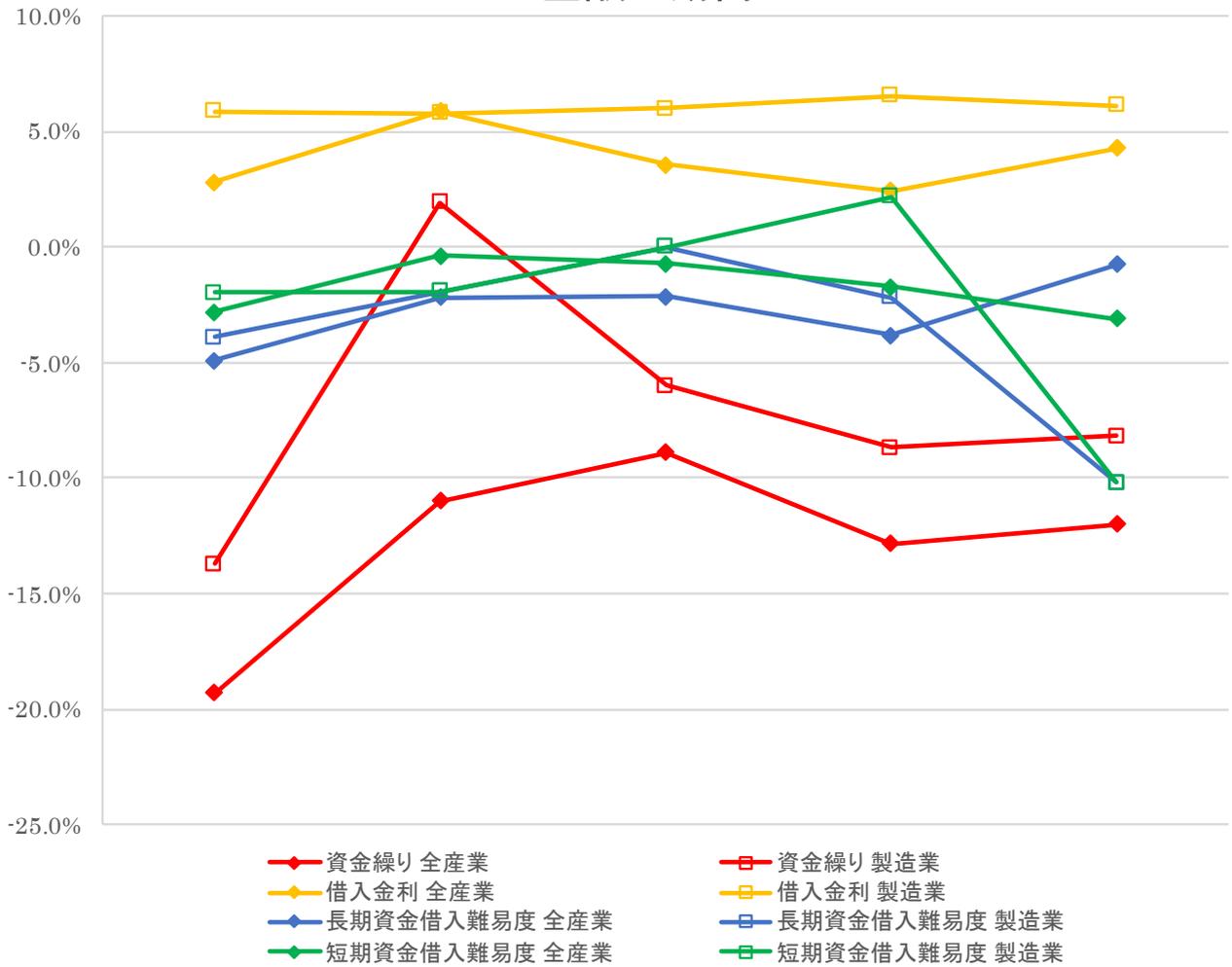
	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	10.9%	8.4%	5.3%	9.7%	2.3%	-4.7%
製造業	13.7%	9.6%	8.0%	0.0%	0.0%	-6.1%
小売業	19.5%	15.0%	11.1%	24.3%	8.1%	-5.4%
卸売業	33.3%	27.3%	9.1%	13.6%	0.0%	-21.7%

8. 価格動向 DI 「仕入単価」



	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	69.8%	70.3%	65.1%	54.2%	64.0%	40.7%
建設業	78.6%	87.5%	70.4%	68.0%	77.8%	66.7%
製造業	84.3%	82.7%	80.0%	60.9%	71.4%	44.9%
小売業	64.6%	63.8%	54.3%	54.4%	51.4%	31.1%
サービス業	65.0%	62.1%	62.4%	44.6%	62.4%	34.1%
卸売業	66.7%	81.8%	77.3%	63.6%	78.3%	56.5%

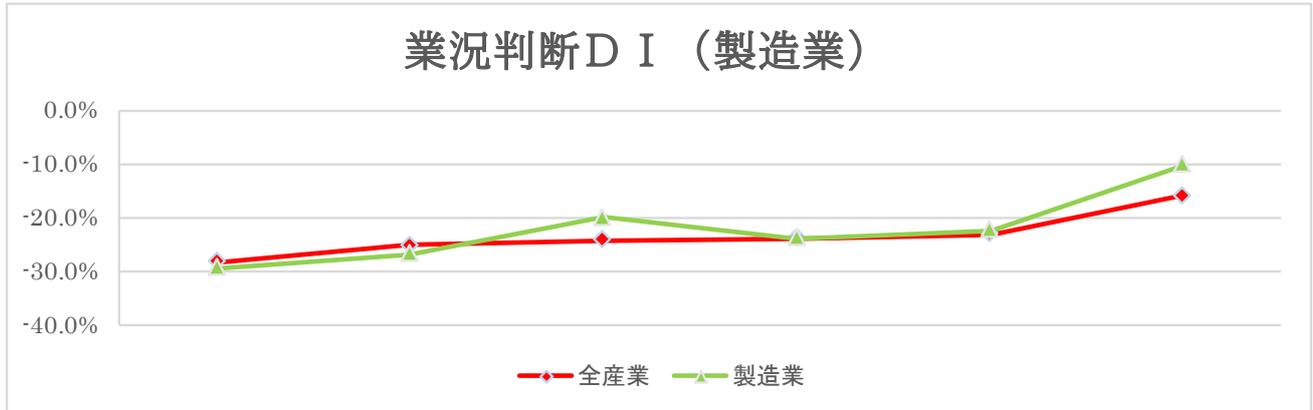
9. 金融の動向



	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月
資金繰り 全産業	-19.9%	-19.3%	-11.0%	-8.9%	-12.8%
資金繰り 製造業	-18.9%	-13.7%	1.9%	-6.0%	-8.7%
借入金利 全産業	5.2%	2.8%	5.9%	3.6%	2.4%
借入金利 製造業	3.8%	5.9%	5.8%	6.0%	6.5%
長期資金借入難易度 全産業	-6.2%	-4.9%	-2.2%	-2.1%	-3.8%
長期資金借入難易度 製造業	-3.8%	-3.9%	-1.9%	0.0%	-2.2%
短期資金借入難易度 全産業	-3.1%	-2.8%	-0.4%	-0.7%	-1.7%
短期資金借入難易度 製造業	0.0%	-2.0%	-1.9%	0.0%	2.2%

◎製造業

○状況判断 DI (悪化－好転)



	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-28.4%	-25.3%	-24.2%	-24.0%	-23.3%	-15.9%
製造業	-29.4%	-26.9%	-20.0%	-23.9%	-22.4%	-10.2%

今期の業況判断DIは、(前期▲23.9) →今期▲22.4 とやや回復した。来期は▲10.2 とかなりの回復を予想している。

売上DIは、(前期10.9) →今期▲8.2 とやや落ち込んだが、来期は20.4 と回復見込みである。

採算DIは、(前期0.0) →今期▲6.1 とやや落ち込み傾向だった。

設備投資実施企業割合は(前期▲23.9) →今期▲2.0 と増加したが、来期は▲12.2 とやや減少の見込みである。

経営上の問題点は、1位は「原価材料の上昇」、2位は「需要の停滞」、3位は、「製従業員の確保難」4位は「人件費の増加」、5位は「製品ニーズの変化」であった。

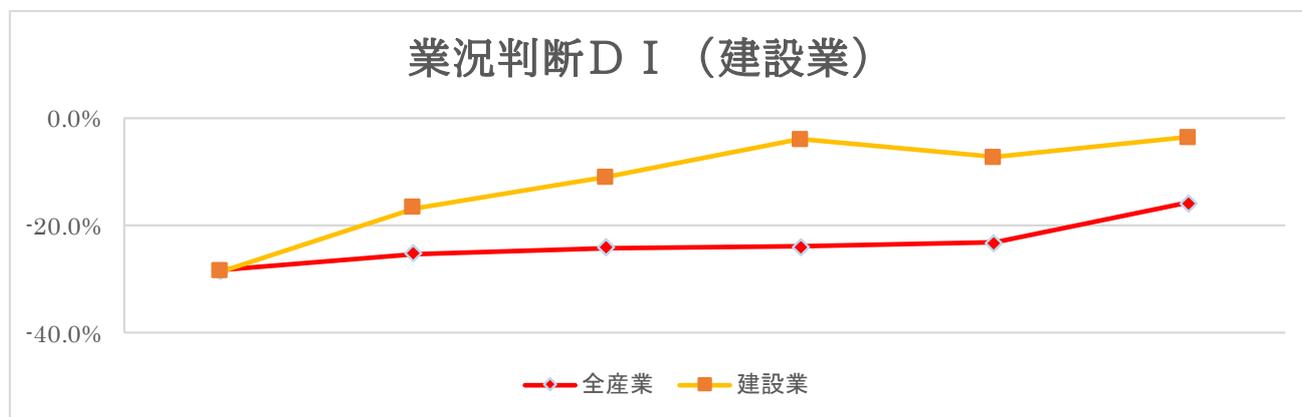
	1位	2位	3位	4位	5位
2024年 4月～6月	60 原価材料の上昇	47 需要の停滞	44 従業員の確保難	31 人件費の増加	25 製品ニーズの変化
2024年 1月～3月	50 原価材料の上昇	41 需要の停滞	33 従業員の確保難	28 人件費の増加	24 生産設備の不足
2023年 10月～12月	70 原価材料の上昇	32 従業員の確保難	29 製品ニーズの変化	28 生産設備の不足	27 需要の停滞
2023年 7月～9月	79 原価材料の上昇	40 従業員の確保難	32 需要の停滞	31 その他の経費増加	26 生産設備の不足
2023年 4月～6月	84 原価材料の上昇	33 製品ニーズの変化	29 その他の経費増加	28 従業員の確保難	27 生産設備の不足

<声>

- ・当方は『適格請求書発行事業者の登録』をしておらず、登録の無いことを理由に取引を停止された先があった。
- ・半導体関連の需要について、先行き不透明な状態が続いている。
- ・天候不順の影響があり、需要が停滞している。
- ・原材料価格が昨年よりは低下し、製品値上げにて採算改善傾向であるが、輸出量の回復は見られず、依然、業況は厳しい状況である。

◎建設業

○状況判断 DI (好転－悪化)



	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-28.4%	-25.3%	-24.2%	-24.0%	-23.3%	-15.9%
建設業	-28.6%	-16.7%	-11.1%	-4.0%	-7.4%	-3.7%

今期の業況判断 DI は、(前期▲4.0) →今期▲7.4 とやや悪化した。来期は▲3.7 とやや回復の予想をしている。

売上 DI は、(前期▲4.0) →今期▲18.5 とかなり減少した。来期は▲22.2 とさらに減少予想をしている。

採算 DI は、(前期▲20.0) →今期▲18.5 とやや回復であった。来期は▲18.5 と横ばいを予想している。

設備投資実施企業割合は (前期▲24.0) →今期▲37.0 と減少し、来期は▲37.0 と横ばいを予想している。

経営上の問題点は、1位は「従業員の確保難」、2位は「材料価格の上昇」、3位は「熟練技術者の確保難」、4位は「人件費の増加」5位「民間需要の停滞」となった。

	1位	2位	3位	4位	5位
2024年 4月～6月	42	25	16	15	12
	従業員の確保難	材料価格の上昇	熟練技術者の確保難	人件費の増加	民間需要の停滞
	28	28	12	12	12

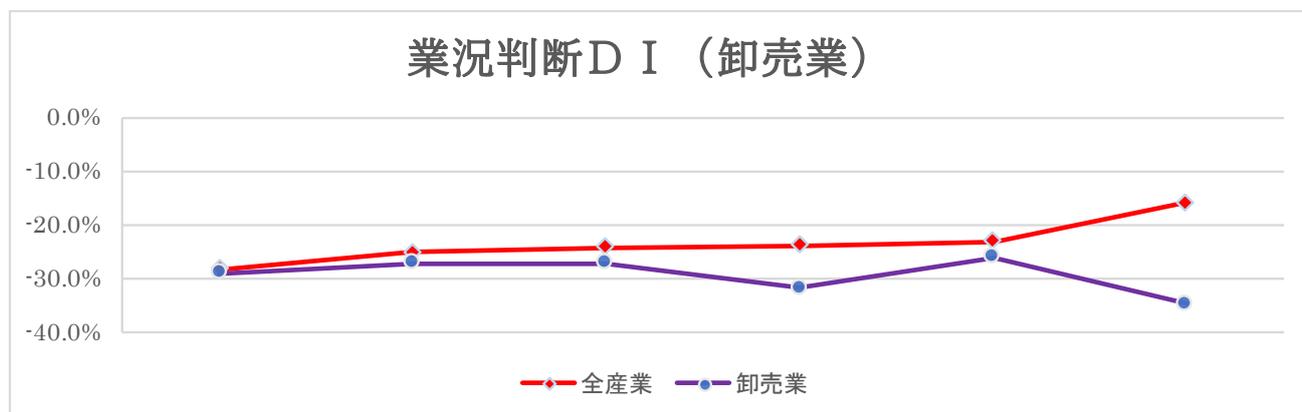
2024年 1月～3月	材料価格の上昇	従業員の確保難	熟練技術者の確保難	官公需要の停滞	民間需要の停滞
2023年 10月～12月	32 材料価格の上昇	20 従業員の確保難	15 熟練技術者の確保難	14 請負単価の低下・上昇難	10 官公需要の停滞
2023年 7月～9月	31 材料価格の上昇	18 人件費の増加	17 従業員の確保難	12 民間需要の停滞	11 請負単価の低下・上昇難 下請単価の上昇 官公需要の停滞
2023年 4月～6月	31 材料価格の上昇	29 従業員の確保難	15 人件費の増加	15 民間需要の停滞	12 官公需要の停滞

<声>

- ・昨年度、一昨年度に大型機械・車両の購入が利益を圧迫したが今後は減少へと。建設業界不況のあおりでダウンしていたが、一月地震以降には井戸の必要性が見直され、回復しつつある。
- ・仕事の引き合いは多くなってきているが、人材確保が難航している為業績が伸び悩んでいる。

◎卸売業

○状況判断 DI (悪化－好転)



	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-28.4%	-25.3%	-24.2%	-24.0%	-23.3%	-15.9%
卸売業	-29.2%	-27.3%	-27.3%	-31.8%	-26.1%	-34.8%

今期の業況判断 DI は、(前期▲31.8) →今期▲26.1 とやや回復したが、来期は▲34.8 と悪化予想をしている。

売上 DI は、(前期▲45.5) →今期▲13.0 と大幅に増加したが来期は▲47.8 と大幅な減少を予想している。

採算 DI は、(前期▲22.7) →今期▲13.0 と回復傾向となった。来期は▲21.7 とやや悪化すると予想をしている。

設備投資実施企業割合は（前期▲63.6）→今期▲47.8と減少した。来期は▲82.6とかなり減少を予想している。

経営上の問題点は、1位は「仕入れ単価の上昇」、2位は「人件費の増加」、3位は「人件費以外の経費増加」、4位は「需要の停滞」、5位は「販売単価の低下・上昇難」となりました。

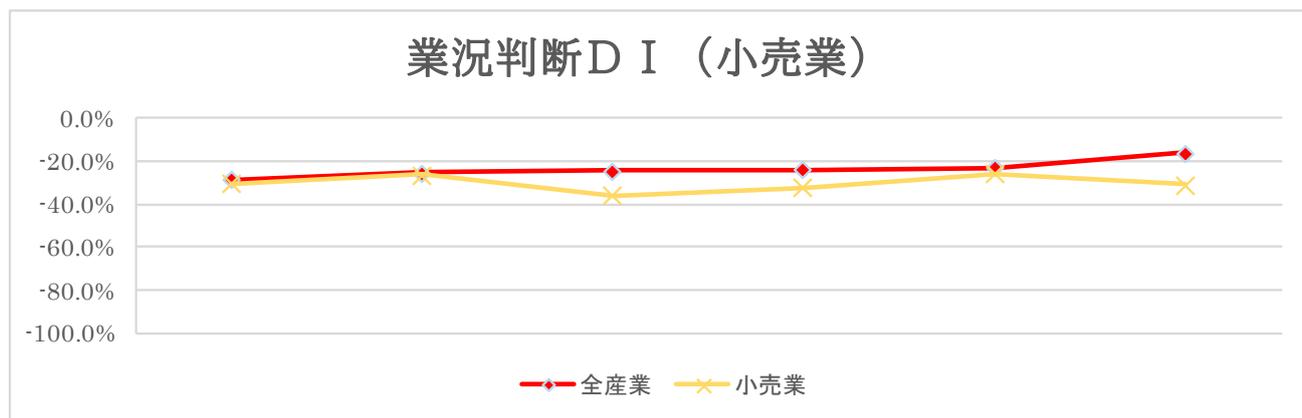
	1位	2位	3位	4位	5位
2024年 4月～6月	27 仕入れ単価の上昇	18 人件費の増加	15 人件費以外の経費増加	15 需要の停滞	13 販売単価の低下・上昇難
2024年 1月～3月	29 仕入れ単価の上昇	26 需要の停滞	23 人件費の増加	10 販売単価の低下・上昇難	9 大企業の進出による競争の激化
2023年 10月～12月	23 仕入れ単価の上昇	22 人件費の増加	14 需要の停滞	13 従業員の確保難	11 小売業の進出による競争の激化 /販売単価の低下・上昇難
2023年 7月～9月	31 仕入れ単価の上昇	21 需要の停滞	19 人件費の増加	13 人件費以外の経費増加	8 店舗・倉庫の老朽化 従業員の確保難
2023年 4月～6月	29 仕入れ単価の上昇	18 需要の停滞	12 大企業の進出による競争の激化	12 従業員の確保難	10 小売業の進出による競争の激化

<声>

- ・小売業の進出による競争の激化。
- ・メーカーのEC向け出荷制限により、大幅売り上げ減少継続中。

◎小売業

○状況判断 DI（好転－好転）



	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-28.4%	-25.3%	-24.2%	-24.0%	-23.3%	-15.9%
小売業	-30.5%	-26.3%	-35.8%	-32.0%	-25.7%	-31.1%

今期の業況判断 DI は、(前期▲32.0) →今期▲25.7 とやや回復した。来期は前期並みに戻り、▲31.1 を予想している。

売上 DI は、(前期▲7.8) →今期▲25.7 と減少した。来期は▲13.5 とやや増加を予想している。

採算 DI は、(前期▲18.4) →今期▲23.0 と落ち込んだ。来期は▲23.0 と横ばいを予想している。

設備投資実施企業割合は(前期▲61.2) →今期▲60.8 と横ばいであった。来期は▲78.4 とさらに減少を予想している。

経営上の問題点は、1位は「消費者ニーズの変化への対応」、2位は「仕入単価の上昇」、3位は「人件費の増加」、4位は「需要の停滞」、5位は「店舗の老朽化」であった。

	1位	2位	3位	4位	5位
2024年 4月～6月	81 消費者ニーズの変化への対応	51 仕入単価の上昇	45 人件費の増加	41 需要の停滞	34 店舗の老朽化
2024年 1月～3月	93 消費者ニーズの変化への対応	89 仕入単価の上昇	73 購買力の他地域への流出	59 店舗の老朽化	55 人件費の増加
2023年 10月～12月	78 消費者ニーズの変化への対応	74 仕入単価の上昇	44 店舗の老朽化	42 購買力の他地域への流出	41 人件費の増加
2023年 7月～9月	83 仕入単価の上昇	72 消費者ニーズの変化への対応	43 需要の停滞	29 購買力の他地域への流出 店舗の老朽化 人件費以外の経費増加 従業員の確保難	
2023年 4月～6月	85 仕入単価の上昇	83 消費者ニーズの変化への対応	48 店舗の老朽化	48 需要の停滞	31 大型店・中型店の進出による競争の激化

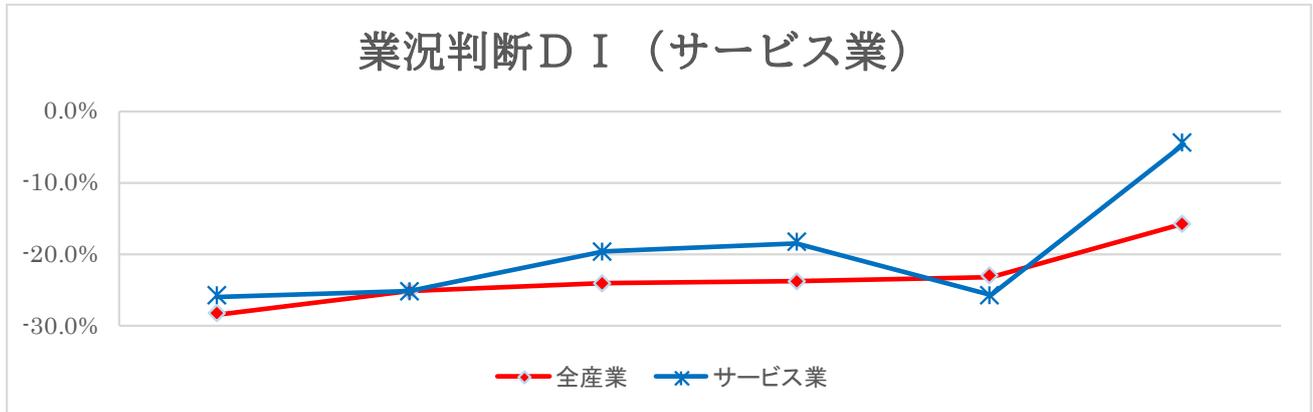
<声>

- ・物呂販売からソフトへのシフト変換中。
- ・母の日があり需要が多かったが、どれだけ来客があるのか見込めず人件費を多くかけるので、売上はあるが利益は出ない。物日に頼らない日常の消費向上をいかに図るかが課題。
- ・製造メーカーの相次ぐ不祥事の影響で売上低下の煽りを受ける。
- ・例年、6月～7月は閑散期なので8月～9月の繁忙期に向けての対策を講じていく。また、利用者のニーズが変わりつつあるのと、利用者のお店の選び方も今後変わっていくのでそちらも対策をしていく。
- ・既存店売り上げは巣ごもり需要の反動から抜けきり、11月以降好調継続。出店も概ね計画通りに推移。
- ・仕入価格も足元では低下傾向。利益は前期より減少も当初計画より減少縮小。
- ・時代の流れかもしれませんが、大垣駅前通りは特に土・日の人通りがなく、特にコロナから、年輩の人達が出てこなくなりました。外人が多くみられます。
- ・年々店の売り上げは減少、貯金は0、今後がとても心配です。
- ・ペットボトル茶の普及により自宅でお茶を淹れる人が大幅に減少した。
- ・茶葉を専門店で購入する人が少なくなった
- ・人件費が毎年上がってきているので残る利益が少ない。

- ・仕入単価の上昇でお酒の値段を上げているが客が少しでも安いところに変えてしまう。
- ・来街者、客単価ともに減少している。

◎サービス業

○状況判断 DI (好転－悪化)



	2023年 4月～6月	2023年 7月～9月	2023年 10月～12月	2024年 1月～3月	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月 (予測)
全産業	-28.4%	-25.3%	-24.2%	-24.0%	-23.3%	-15.9%
サービス業	-26.0%	-25.3%	-19.8%	-18.5%	-25.9%	-4.7%

今期の業況判断 DI は、(前期▲18.5) →今期▲25.9 と少し悪化した。来期もマイナス予想だが、▲4.7 と大幅な改善を予想している。

売上 DI は、(前期▲7.6) →今期 5.9 と回復傾向であったが、来期は▲1.2 とやや落ち込みを予想している。

採算 DI は、(前期▲5.4) →今期▲8.2 とやや落ち込み傾向だった。来期は▲18.8 と悪化を予想している。

設備投資実施企業割合は (前期▲14.1) →今期▲20.0 と減少した。来期▲10.6 と少し増加を予想している。

経営上の問題点は、1位は「材料等仕入単価の上昇」、2位は「利用者のニーズの変化への対応」、3位は「人件費以外の経費増加」、4位は「従業員の確保難」、「需要の停滞」と順位は前後したものの同内容が上位となった。

	1位	2位	3位	4位	5位
2024年 4月～6月	83 材料等仕入単価の上昇	80 利用者のニーズの変化への対応	56 人件費以外の経費増加	50 従業員の確保難	47 需要の停滞
2024年 1月～3月	84 材料等仕入単価の上昇	71 利用者のニーズの変化への対応	60 従業員の確保難	41 人件費の増加	41 需要の停滞
2023年 10月～12月	101 利用者のニーズの変化への対応	83 人件費以外の経費増加	78 材料等仕入単価の上昇	55 従業員の確保難	53 人件費の増加

2023年 7月～9月	101	77	63	61	47
	材料等仕入単価の上昇	利用者のニーズの変化への対応	従業員の確保難	人件費以外の経費増加	需要の停滞
2023年 4月～6月	112	107	64	60	51
	材料等仕入単価の上昇	利用者のニーズの変化への対応	人件費以外の経費増加	従業員の確保難	需要の停滞

<声>

- ・人材不足が一番の課題。
- ・大企業の進出による競争の激化。
- ・予想以上に仕入価格が上昇。インボイス登録番号未取得の取引業者に対しての対策に苦慮。
- ・当院だけではなく他の所がうまくいかず来院回数が減っている状況なので少なからず影響を受けている。
- ・慢性的な従業員の確保難が続いている。
- ・近隣にフランチャイズ院が移転したので注視して行きます。
- ・コロナのころを思えば忙しくはなっているかなど。しかし食材・燃料等の高騰が収まらず、かといってこれ以上の商品価格の改訂は今するべきではないと感じている。圧倒的にアルコールでの利益が見込めず、消費者はソフトドリンクすら頼まない状況に参っている。しかし視点を変えれば、飲み物を我慢してでも当店の料理を食べに来て頂いているのだと思えば弱音ばかり吐いてられない。特に最近感じるのは、消費者の高齢化。世の中様々なところでデジタル化が進んで来たのに、しばらくはアナログ対応もマニュアルとして用意しておかないと大変。スタッフの高齢化がもたらしているマイナスな問題とも並行して対策を考えていないといけないと痛感している。
- ・新規スタッフの研修を行っているところだが、デビューし、お客さんがつくまでに少しタイムラグがあります。新規メニューの開拓として、マタニティのメニューを考案中。仕入の金額がなかなか減らない。
- ・法改正に伴う利用制限のある土地が増え、再利用がむずかしい点が課題と思える。